

Digital Performer 8.07 お読みください

Digital Performer 8.07をご使用いただきありがとうございます。

DPエクストラディスク

Digital Performer Version 8パッケージには、エクストラディスクはありません。クイックガイドの9頁に記載されたエクストラディスクは記載間違いです。Digital Performerに必要な全てのコンポーネントは、付属インストーラーディスクにあります。また、www.motu.com/downloadよりダウンロードも可能です。

Windowsバージョンについて

WindowsバージョンのDigital Performerをリリースしました。（Digital Performer 8.02より）WindowsバージョンのDigital Performerは、Mac OS XバージョンのDigital Performerと同じキーコードで認証を解除できます。また、www.motu.com/downloadよりダウンロードも可能です。

Windows環境でMOTUオーディオインターフェイスをご使用の場合、最新のMOTU Universal Audioインストーラーをmotu.com/downloadよりダウンロードし、最新のドライバをインストールしてください。

日本語バージョン（Windowsユーザー）

Windows環境のDigital Performer 8.05は、日本語バージョンではありません。日本語バージョンのリリースは、次回アップデート時を予定しております。最新バージョンのリリース等につきましては、www.motu.comでご確認ください。

動作環境

Digital Performer 8.07をご使用いただくには、OSX（10.6.8, 10.7.x, 10.8.x, 10.9）、またはWindows 7/8で起動したMac、Intel Core Duo CPU 1.83 GHzプロセッサ以上のPCコンピュータが必要です。（マルチプロセッサ、またはマルチコアプロセッサ必須）PowerPC CPUのMacには対応していません。2 GB以上のRAM容量必須。（4 GB以上推奨）1024 x 768レゾリューション以上のモニタ必須。（1280 x 1024以上推奨）

64ビットオペレーション

Digital Performerは、Mac、及びWindowsの64ビットオペレーションに完全対応しています。この機能により、コンピュータに搭載したRAMを最大限に活用することが

できます。

64ビットと32ビットモード

Digital Performerは、Mac OS X、及びWindows環境の64ビットモード、32ビットモードのどちらでも起動することができるため、32ビットプラグインやバーチャルインストルメントも引き続きご使用いただけます。

Mac OS X環境のDigital Performerは、初期設定で64ビットモードに設定されています。32ビットモードに切り替えるには、ファインダでDigital Performerを選択 > 「情報を見る」コマンド（ファイルメニュー） > 「32ビットモードで開く」チェックボックスを選択します。

Windows環境では、64ビットモードと32ビットモードの2つのDigital Performerアプリケーションがあります。必要なモードのDigital Performerを起動して下さい。

キーコードアクティベーション

Digital Performerアプリケーションを初めて起動すると、メールアドレス、お名前、キーコード（DP8ユーザーガイド裏表紙の内面）を入力してアプリケーションの認証を行います。このキーコードを他者へ譲渡することはできません。ソフトウェアライセンス一つにつき、一つのキーコードとなります。キーコードアクティベーションについての詳しい説明は、**DPアクティベーションFAQ**（後述）をお読みください。

Digital Performer 認証

メールアドレス、氏名、キーコードを入力してDigital Performerの認証を実行してください。

メールアドレス：

氏名：

キーコード：

キーコードをお持ちでない場合には、「試用」をクリックして30日間の試用プログラムをご使用頂くことができます。

このメールアドレス経由でMOTUにコンタクトを許可

30日間の試用

DP8では30日間の試用期間をご用意しています。上記認証ウインドウでメールアドレス、氏名を入力後、試用ボタンをクリックするとDigital Performerの試用を開始します。試用期間中のDigital Performerでは、MP3出力機能を除く全ての機能をご使用頂けます。購入ボタンをクリックすると、MOTUオンラインストアからDigital Performerをご購入頂けます。ご購入後は、キーコードを入力してDigital Performerの認証作業を完了してください。キーコードアクティベーションについての詳しい説明は、**DPアクティベーションFAQ**（後述）をお読みください。

変更と新機能

DP 8の変更と新機能についての詳しい説明は、Digital Performerのヘルプメニューを参照ください。

DP8ユーザーガイドとクイックガイドのPDF

DP8には、DP8ユーザーガイドとクイックガイドのPDFファイルが付属します。これらのPDFファイルは、Digital Performerのヘルプメニューからも起動することができます。

マニュアル/PDFに記載されていない機能

32ビットモードで起動したDigital Performerのメモリーメーター（オーディオパフォーマンスウインドウ）では、Mac OS X 32ビットアプリケーションで使用可能な

4GBメモリーの使用状況を表します。メーターが100%に到達すると、Digital Performerのメモリーが使用が最大に達したことを表し、Digital Performer内のパフォーマンスに問題が生じる恐れがあります。 unnecessary プラグイン等を無効にしましょう。

バージョン8.07の改良点

バージョン8.07には、多くの改良点を含みます。以下はその一例です。：

- 非常に長いオーディオファイルが頻繁にオーバービューのリドローを繰り返す問題を修復。
- 「全てのシーケンスでムービーを共有」非選択時のムービーウィンドウが正しく更新されない問題を修復。
- チェンジテンポダイアログボックスのエンドタイムが正しく計算されない問題を修復。
- 外部ビデオ機器の対応を向上。
- パンチインポイントのパンチガード機能の問題を修復。
- 非常に複雑なバス設定を含んだプロジェクトのクラッシュ問題を修復。
- 2つのシーケンスで同じ名前のインストルメントを使用している場合の初期名バンドルでオーディオが正しくルーティングされない問題を修復。
- 「Win」：ReWire関連のクラッシュ問題を修復。
- 「Mac」：Yosemite環境の問題を修復/改善。
- ビデオ出力時の問題を修復/改善。
- レンダーされたフェーダーをOMF/AAFで出力する際のクラッシュ問題を修復。
- クイックスクライプの「以下の条件に該当する音を表示しない」オプションを初期設定でオフに変更。
- パンチガード機能初期設定を「プリロールを常に録音」から「パンチイン時のみプリロールを録音」に変更。
- 「Mac」：ハードウェアドライバの設定ダイアログボックスのバッファサイズメニューに16、32
サンプルバッファサイズを追加。（要対応機器）
- AAF出力時のオーディオデータを埋め込むオプションを廃止。
- Final Cut Pro 7 XML読み込みを向上。
- サウンドバイトにエフェクト適用後、バイトゲインを削除。（エフェクトと共に既に適用されるため）
- MIDIエディターへ1つのトラックをペーストする場合、現在のマスタートラックへ

ペーストを実行。

- 「Mac」：ファイルダイアログボックス内のカット、コピー、ペースト機能を修復。
- 「Win」：クリッピングの不具合を修復。
- 「Win」：印刷時の不具合を修復。
- 「Win」：前回のダイアログボックス表示位置の不具合を修復。
- 「Mac」：複数のミラーディスプレイ使用時のビデオ再生の不具合を修復。
- 「Mac」：48kHz以上のサンプルレートのQuickTimeへのバウンスの不具合を修復。Apple社のAACエンコーダーは48kHzまでしか対応していないため、DPは必要に応じてダウンサンプルします。
- 「Mac」：10.9+環境のビデオの読み込み、及び再生を向上。
- プロジェクトを開く際のムービーウィンドウのウィンドウサイズを記憶。
- ムービーを停止することなくアンロック可能。
- 縦表示（90度）のストリーマー表示。
- クリックが生成するパンチのオフ機能。（サイズメニューで「無」を選択）
- トラックの複製時に、オートメーションステイタスも併せて複製。
- サーチウィンドウ表示不具合を修復。
- 不適合なMIDIメッセージを無視することにより、これらのMIDIメッセージを生成するMIDI機器との互換を向上。
- OMF/AAFの読み込みと出力を向上。
- 小節の挿入時に起こり得たバグを修復。
- “Kontakt 5 [16 out]”のようにマルチアウトVSTのアウトプットコンフィギュレーションの名称表示。
- Kontakt 5のようなマルチアウトプットコンフィギュレーションのインストルメントトラックを追加する際に未設定のトラックを作成する問題を修復。
- 「Win」：前面のプラグインウィンドウがキーストロークを開放しない問題を修復。

バージョン8.06の改良点

バージョン8.06には、多くの改良点を含みます。以下はその一例です。：

- インターラクティブなチュートリアルレッスンのガイドを追加。（Application Supportフォルダ内のGuided Lessonプロジェクト - motu.com/download からダウンロード可能。）
- 複数のCore Audio機器を使用するOS 10.9環境の動作向上。
- ミキシングボードのセンドのドラッグ&ドロップ機能。
- Windows環境の日本語対応。

- OMF/AAFファイルのクロスフェード読み込みを改善。
- Windows環境のドラッグ&ドロップ、ウインドウフォーカス、インストールメントaux設定機能、及びムービーウインドウを改善。
- Windows環境でDigidesign Accel HD機器のサンプルレート変更問題を解決。
- いくつかのムービー、及び読み込み時の問題を改善。
- チャンク複製時のバーチャルインストールメントのaux設定を保持。
- Scuffham S-Gearプラグインへの対応を向上。
- MOTUビデオ機器、及びDVアウトプット使用時のビデオアウトプットオフセット機能を改善。（外部タイムベースへの同期時も含む）
- Windows環境のUADプラグイン対応を改善。
- 同じV-Rackを含んだドキュメントから読み込んだMIDIトラックのV-Rackバーチャルインストールメントアウトプット設定を保持。
- Mac OS X 10.9環境でプラグインのアイコンメニュー問題を解決。

バージョン8.05の改良点

バージョン8.05には、多くの改良点を含みます。以下はその一例です。：

- ペースト、マージ、スプライスコマンドに、ワイパー位置とオリジナルタイム位置を追加。各コマンドのショートカットは、コマンドウインドウを参照。
- 外部ビデオ（DV、及びMOTUビデオ機器）のMTC、またはLTCへの同期を実現。
- 外部ビデオオフセットをMOTUビデオ機器のアウトプットへ適用。（DVアウトプットに加えて）
- バウンストゥディスク実行前にレイテンシーを正しく更新。
- バウンストゥディスク時のサイドチェインとバーチャルインストールメント（VI）のauxアウトプットのレイテンシー補正を改良。
- スクロールホイール対応を強化。（Apple製品、及びサードパーティ社製品）
- エフェクトセレクタの安定性を改良。
- Audio Unit（AU）プラグイン対応を改善。（特にOmnisphere）
- Vienna Symphonic Library（VSL）とVienna Ensemble Pro（VEP）対応を改善。
- 選択域のタイム情報をグローバルからチャンクベースへ変更。（DP5時の機能を復活）
- シンクポイントを含んだサウンドバイトのコピー、及びペーストを改善。
- Mac環境：DP起動時に開くドキュメント選択オプションに”無”を復活。
- 再生選択を解除したMIDIトラックのミキシングボードボリューム、及びパンのチェイ

ス機能を廃止。

- コマンド/ctrl-↑↓でトラックオーバービューのズームをコントロール。
- カラープリファレンスとオーディオウェーブフォームカラーの効果を改良。
- MIDIコントローラーオーバーダブ時のMIDIノートのドロップ問題を解決。
- 自動保存機能の改良：保存数の指定化。
- Windows環境：OSCコントロールサーフェイスプラグインの64ビットバージョンを追加。（DP8のiPhone appに必須）
- MP3出力スピードを改良。
- ウィンドウのクローズボタンをオプション-クリックで類似ウィンドウを全て閉じる。
- AUオートメーション値のエディット機能を復活。
- MIDIタイムコード（MTC）同期時のオーディオパフォーマンスを改良。
- トラックオーバービューでサウンドバイトをダブルクリック時にシーケンスエディターと同じサウンドバイトへのスクロール機能を復活。
- Mac環境：バウンストゥCD機能を修復。
- 64ビットモードで起動したDPのカスタムコンソール問題を改善。

バージョン8.04の改良点

- Soloistプラグインのデザインを一新。
- DLS MusicDeviceをプラグインとして使用した際のクラッシュ問題を解決。
- ピッチエディット時に発生し得たクラッシュ問題を解決。
- ブロードキャストウェーブファイルの取り扱いを改良。
- パンチガード不使用時の録音問題を解決。
- Waves VSTのリスト（モノ、またはステレオ）を正しく表示。

バージョン8.03の改良点

- ウェーブフォームオーバービュー計算時のクラッシュ問題を解決。

Windowsバージョンの改良点：

- クラッシュリポーターの内容をより詳しく改善。
- 特定のコンピュータ上で発生していたクイックスクライブ表示へ切り替えた際のクラッシュ問題を解決。
- Focusrite、Avid Mbox2、Lexiconオーディオインターフェイスへの対応を改良。
- USキーボード以外への対応を改良。

- プラグイン（Superior Drummer等）からのMIDIデータのドラッグ&ドロップ時の問題を解決。
- ASIOエラー表示を改良。

バージョン8.02の新機能

30日間の試用が可能になりました。

motu.com/storeからのオンライン購入が可能になりました。

起動時に表示されるようこそウィンドウから、最近開いたファイル、新規プロジェクトテンプレート、トレーニングリソース、及びMOTUニュースを開くことができるようになりました。

MP3の出力機能をDPアプリケーション内に組み込みました。この機能により、LAME framework（またはその他の類似セットアップ）が必要無くなりました。

以下の改良点：

- ムービーが全画面の場合、チャンクの表示を全画面で保持。
- ムービートラック表示時のパフォーマンス、及びビデオスクラブを改良。
- あるズームレベルのウェーブフォーム描写がよりスムーズになりました。
- VSTプラグインを使用したプロジェクトのバウンストゥディスクを改良。
- MIDIポートとReWire（Reason、Bidule等）使用時の安定性とパフォーマンスを改良。
- 64ビットオペレーション時のKontakt 4/5の安定性を改良。
- VEP、EastWest Play、Spectrasonics Omnisphere、及びMac OS X 10.8のAUSamplerの互換性を改良。
- 接着したMIDIノートの再生時問題を改良。
- 自動保存機能の向上で多バージョンの自動保存ファイルをプロジェクト内のサブフォルダに保存可。
- ウェーブフォームの表示、及びエディットを改良。
- クイックスクライブのディミニッシュ（°）、及びメジャー7（Δ）コードの入力を再生時問題を修復。
- チャンクのマージ時にソングからテンポモードを抽出。
- エフェクトセレクタのエフェクトカテゴリーに全ての項目を表示。

- スクロールホイールのセンシティブリティをDP 7（以前）に復元。
- 複数のトラックが選択されている場合、ミキシングボードやクイックスクライブ表示に切り替えると、選択されたトラックだけを表示機能を復元。
- waveファイルのブロードキャスト時のタイムスタンプ問題を解決。

バージョン8.01の新機能

コンソリデイトウインドウが全画面に対応しました。（要Mac OS X 10.7以降）

ミキシングボードのインサートからプラグインセクタを開く方法を変更しました。インサートスロットに既に選択されたプラグインが存在する場合、コマンド/ctrl-クリックでプラグインセクタを開きます。（8.0では、インサートスロットの右端をクリックしてプラグインセクタを開く）

Mac OS X 10.6.8で**3台以上のモニタ**を接続している場合には、安定化の為にMac OS X 10.7へのアップグレードを強くお勧めします。

BPM、Ethno、Electric Keysユーザー

BPM、Ethno、Electric KeysをDigital Performerで使用してながら64ビットモードを活用するには、AU、またはVSTバージョンのプラグインをご使用ください。（MASバージョンは64ビットに対応していません。）DP8プロジェクトをMac-Windows間でトランスファーするには、VSTバージョンのプラグインをしようします。従来バージョンのDPプロジェクトをDP8へ移行するには、以下の方法で従来のMASバージョンの設定をAU、またはVSTバージョンへトランスファーします。：

1. 従来バージョンのDPでプロジェクトを開く
2. インストルメントプラグイン設定をプラグイン内で保存する（BPM：Performance、Ethno：Multi、Electric Keys：Combi）
3. DP8でプロジェクトを開く
4. AUバージョンのBPM、Ethno、Electric Keys で先に作成した設定（BPM：Performance、Ethno：Multi、Electric Keys：Combi）を読み込む

ノート：MachFive 3では、上記の手順を実行する必要はありません。設定事項は、そのままDP8へ持ち越します。

Digital Performer 8をお楽しみください！

Sincerely,

The Digital Performer Development Team

www.motu.com/techsupport

www.motu.com/suggestions

DP8アクティベーションFAQ

DP8の認証方法は？

DP8を初めて起動すると、キーコードを尋ねる認証ウィンドウが開きます。

従来バージョンのユーザー様：DP8では、キーコードの認証作業にインストールディスクは必要ありません。

キーコードはどこにありますか？

キーコードは、DP8ユーザーガイドの裏表紙の内面にあります。オンラインでDP8を購入した場合、MOTUからお送りする確認メール、またはMOTUウェブサイトのお客様のアカウントでご確認頂けます。認証を完了したDPでは、「Digital Performerについて…」コマンドでキーコードを見ることができます。

他者とキーコードを共有できますか？

できません。

DP8の認証にインターネット接続は必要ですか？

はい、必要です。DP8を起動するコンピュータがインターネット環境にない場合には、インターネット環境にある別のコンピュータへチャレンジファイルを移動して認証作業

を行い、そのレスポンスファイルをDP8を起動するコンピュータへ戻すことにより、インターネット環境にないコンピュータでもDP8を起動することができるようになります。詳しい説明は、[ここをクリック](#)してください。

複数のコンピュータで同時DPを認証できますか？

Digital Performerのインストール時に”同意する”ボタンをクリックすることで、Digital Performerエンドユーザーライセンス契約に同意することになります。Digital Performerのライセンス契約では、一つのライセンスで一台のコンピュータ上の使用を許可します。昨今のコンピュータ使用状況を考察した結果、Digital Performerでは同時に二台のコンピュータ上での使用を可能にしています。（Mac、またはPC）

DPの認証を別のコンピュータへ移動する方法は？

単純に必要なコンピュータで認証作業を実行してください。既に二台のコンピュータ上で認証作業を実行していた場合には、先に認証作業を行ったコンピュータの認証を取り消し、新しいコンピュータでの作業を認証します。

©2013 MOTU, Inc.